

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 272

2007年7・8月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



「生協の資産、人のつながりは大学にとっても大きな財産だ」と語る小野木克明工学研究科長

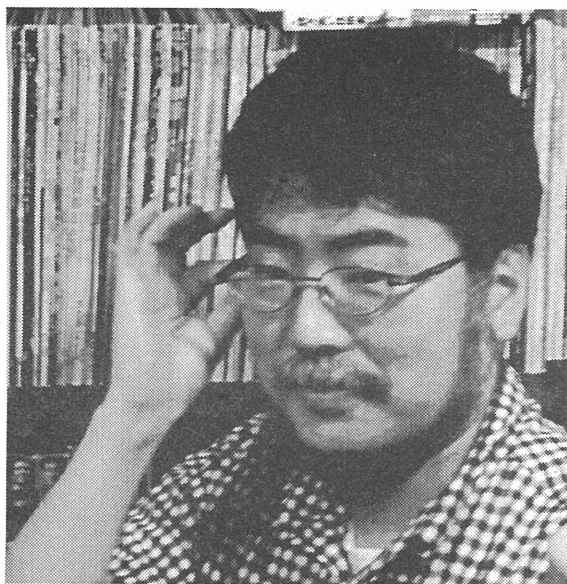
名大生協のホームページ (URL) <http://www.nucoop.jp/>
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

新理事長就任の挨拶	3
【インタビュー】	
学問の魅力、学生、生協への期待——トップインタビュー⑮	
小野木克明工学研究科長	4
【企画案内】	
瑞浪・中国人殉難者慰霊祭と化石博物館見学	13
【報告】	
オーバビー博士の講演会報告(6月6日)	14
名大祭企画報告(平和憲章委員会)	15
6月度理事会報告	15
教職員委員会の活動日誌	17
【記事】	
東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ①	
「オサゾウムシ科」	16
ニュースに一喝！	
「不正介護サービス」「社会保険庁」「緑資源機構」	18
新フィールドノート—その101—	
「飯田市のハナノキ」	19
魔言「勉強の仕方」「ズキズキ痛む」「イチゴミルクとレモン ティー」	22
かけはしの輪	24
アンケート・クイズ解答用紙	26
CO-OP QUIZ < Logic >	27
今月のシンポジウム・公開講座	裏表紙

新理事長就任の挨拶

戸田山和久 生協理事長



名古屋大学に職を得てから今年で18年になりました。その前に、12年の長きにわたり学生生活をしていましたので、ちょうど通算30年間、大学というところに籍を置いているわけです。その間、大学生協にはずっとお世話になってきました。30年間に体重が30キロほど増えてしまいました。その増加分の3分

の1ほど、つまり10キロは、生協食堂に由来するのではないのでしょうか。まさしく、生協は私の血となり肉となったわけです。：贅肉ですが。ここいらでそろそろ恩返しをしてもいいかも、と思ったので、理事長をひきうけることにしました。

授業で、大学の起源について

話をすることがあります。釈迦に説法かもしれませんが、と復習してみましよう。大学は、中世ヨーロッパにおいて、学問をするために集まった学生たちが、衣食住の改善を求めて都市と交渉をするための「組合（『ウニヴェルシタス』として始ま

りました。この話をするとき、私は、「だから、大学ってのはそもそも生協みたいなものだったわけだ」と言います。この、組合に集った学生たちが形成した精神風土や価値観、世俗との適度な距離感といった、「大学の理念」あるいは「大学らしさ」は、現代になっても伝統のある大学には形を変えながら息づいています。

一方、日本のとくに国立大学は、明治新政府の上からの近代化政策によって、こうした精神風土（『エトス』）とはとりあえず切り離された形で急ごしらえで作られました。大学と言うよりは、学校と工場と役所の複合体みたいなところなんです。われわれのいる日本の大学というところは、あらかじめ失われた大学の理念を、あとになってからなんとか手に入れようともがき苦しんできたように思います。それも、法人化以後の昨今の高等教育政策によってそろそろとどめを刺されそうですが。

よくよく考えてみると、私は学校も工場も役所もそれぞれ大嫌いなんですね。「近代の三大悪」と呼んでもよさそうな組織

がよりによってくつついちゃったのが、日本の国立大学かもしれない。それでも飽きもせずずっと大学にしがみついているのはなぜだろうと考えると、かすかなものではあれ、良い意味で「前近代的」な「寄り合い」とか「くみあい」といった共同体の名残りが、まだ大学には維持されているからなのでしょう。もちろん、生協はその一つです。

理事長をお引き受けしてから、たとえば、学生委員のみなさんの活躍ぶりなどについて、あらためて知ることになりました。本を読もう、戦争と平和について学ぼう、留学生の生活を守ろう……。こうした思いを共有してゆるやかに連帯して活動していこうという動きが現在の大学にもまだ残っていることを知ると、ほんとうにホッとします。現代日本の国立大学において、生協は、「大学らしさ」の重要な継承者であり、創造者なのだから、過言ではないでしょう。この一年、皆さん方のお知恵と力を借りて、理事長として精一杯つとめさせて頂こうと思っています。ご協力をお願いいたします。

学問の魅力、学生、生協への期待

— トップインタビュー ⑮ —

小野木 克明 工学研究科長

加藤 名古屋大学の先生方がどんなことをされているか、「名大トピックス」などでも紹介されていますが、「かけはし」で紹介する先生方へのインタビューも読者から歓迎されています。研究分野をやさしい言葉で紹介していただき、どんな楽しみや苦労があるか、先生自身の体験を振り返りながらお話をいただきたいと思います。また、工学研究科のこれからや学部生、大学院生のこと、生協へのご意見もいただきたいと思います。



(6月7日 研究科長室にて)

工学とはどんな学問か

小野木 私の専門のお話をする前に、工学というものがあまり知られていないこと、最近いろいろなところで理科離れということが議論になりましたので、これらについてまずお話ししたいと思います。

工学部では高校生を対象にいろいろな催し物を行っています。それらの場で高校生から必ず質問さ

れるのが、工学と理学はどちらかということ。高校生にとっては数学、物理、化学などの授業はありますが、理学のイメージはよくわかんと思うのですが、工学が何をやるものか、ぴんとこないのが実情だと思います。工学と理学のどこが違うか、少なくとも言えるのは、工学は時代や社会に極めて密接に関係づけられた学問だということでしょう。よく、あるものを見つけて出すのが理学で、無いものを作るのが工学だと言われま

小野木克明 (ONOGI KATSUAKI) 工学研究科長

1996/04- 名古屋大学教授 (工学研究科)

2007/04- 名古屋大学工学研究科長

大学院工学研究科・工学部 化学・生物工学専攻
専門分野

プロセスシステム工学

数理工学

制御工学

研究室のホームページ (URL)

<http://www.pse.nuce.nagoya-u.ac.jp/>

す。一つの側面かもしれませんが、これは工学と理学の違いを端的に表した言葉だと思えます。自然の秘密を解き明かし、自然に関する知識を豊かにするのが理学だと思えます。理学の先生はあるものを発見し、それによって知識体系がきれいな形で埋められていくことに大きな喜びを感じておられるだろうと思えます。一方、科学、サイエンスで得られた発見を社会に還元するためには、それを使えるものにしなければなりません。そのサイエンスと社会の橋渡しをするのが科学技術です。工学は、その科学技術と極めて密接に関連した分野です。そういうと、工学は理学から派生したものとさええられる虞がありますが、実際には必ずしもそうではなく、歴史的に見ても、工学と理学はお互いに関連づけながら発達してきています。たとえば昔は内燃機関の研究がよくされていましたが、これによって熱というものの本質がかなりわかってきました。これは工学から理学への貢献です。逆に理学

工学の対象は人工物

もう一つの工学の見方を紹介しましょう、吉川弘之先生が何かの雑誌に書いておられたことです。学問って一体なんだという話になりますと、よく「学問は対象の本質をとらえるもの」と言われます。すると、対象によってその学問領域が決まってくることになります。物理とか化学では対象は物質の性質となります。また、生物学であれば対象は生物に、心理学や社会学では対象は人間となります。次に、本質を明らかにする方法としては、「ある仮説を立て、それを実験などで試して検証する」という科学的な方法がとられます。しかし、これを工学に当てはめると、

工学—物を創りだすこと

では、方法論はというと、先ほど学問では科学的な方法で物の本質をとらえるといいましたが、では工学でも科学的な方法だけで大丈夫かということになります。しかし、工学では、本質を明らかに

途端にいろいろな問題が出てきます。まず対象が何かというと、工学は人がつくるものですから、対象は際限なくどんどん増えていつてしまします。そのため、工学では、対象が機械であれば機械工学、電気であれば電気工学といったように対象を区切ることにになります。ところが、それでもどんどん新しい分野が、医療工学とか金融工学とか、さらにこれから作り出すものも対象になってきますから、それこそ際限なくできてしまうことになります。そこで最近では人がつくるものをまとめて人工物と呼んでいます。これで工学の対象は人工物に落ち着くことになります。

このように方法論から見ても、普通の学問とは少し成合が違うことになります。工学では、物の本質を明らかにすること、それを逆に使うこと、そしてこれらを幾度となく繰り返すことが必要となります。ですから従来の学問とは少し違う学問分野です。

初めに社会と密接に関係した分野だと言いましたが、時代や社会の要請に対して敏感な分野だといえます。やはり本質的には工学と理学はかなり違うような気もします。このような話をすると、高校生にもある程度、工学という分野が分かってもらえるようです。

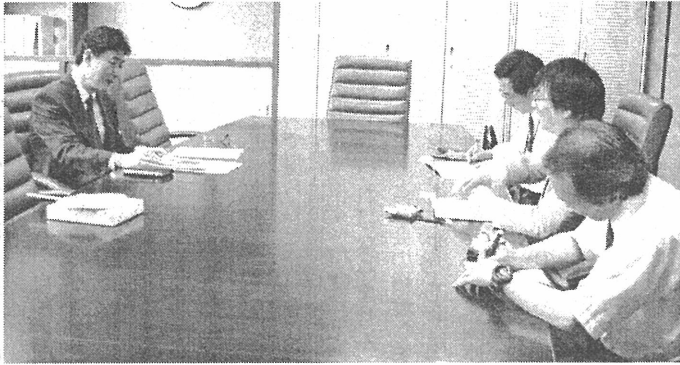
若者の「理工系離れ」

次に、初めにもお話ししたように、先日開催された国立大学工学部長会議でも、「理工系離れ」が大きな議論になりました。多くの大学で工学部への志望者が減っているというところで、各大学でい

工学と理学は互いに関連づけながら発達。工学は物を創り出すことに重点がおかれています。

若者の「理工系離れ」には、大学にも責任があります。ぜひ工学部にきてほしいものです。

いろいろな試みがされています。もちろん、私たちもいろいろな試みを行っています。しかし、この問題は、それぞれの大学の努力だけではどうしようもないところがあります。



インタビュに答える小野木克明教授（左）。（6月7日、工学研究科長室にて）

ます。

理工系離れの第1の原因は、子供たちが置かれている環境にあるような気がします。例えば、子どもたちが物に触れたりいろいろな体験をする機会は、最近本当に少なくなってきました。その一方で、テレビなどから入る情報は氾濫しています。また、テレビゲームなどを通じてシミュレーションができるため、疑似体験によって、あれが本当の世界だ、本質が分かったと思いついてしまう傾向にあります。このようななかで、学校で使う教科書はというと、できるだけ生徒に分かりやすくということですが、ますます簡単なものとなってきました。しかし、これだけ情報があふれている時代に教科書の内容だけを簡単にしても、逆にそれが理解できない生徒は自信を喪失してしまうような気がします。また、高校に入ると文系と理系に分かれますが、それが本当にいいのか、このような早い時期に色分けする無理な教育体制もやる気をなくすことの根幹にある

ような気がします。

第2の原因は、大人がおかれている環境にもあるような気がします。私学などでは理系の授業料は文系よりも高いのですが、それだけ学生時代に「投資」しても、卒業して社会に出て行つたときに優遇されるかというと、必ずしもそうでもないようです。費用対効果から見ると、決して優遇されているとは思えません。したがって、理系であれば、資格の取れる医歯薬系の人気が高いのも当然と思われる。

それから、大学でも特に工学部は、多くの大学が軒並み組織を変えた時期があつて、学科の名前によくわからない名前がついているところが多いようです。大学の都合で組織を変えたならば、それをきちんと説明することは大学の責任だろうと思います。したがって、第3の原因として、大学自身の努力不足、PR不足もあげられます。このように、社会を取り巻く環境全般が、理系離れの原因になっているという気がしています。

す。しかし、いずれにしても資源の乏しいわが国にとつては、結局のところ、科学技術に頼らざるを得ないのが現状です。最近世の中も好調ですので、ぜひ工学部にきてほしいものです。

研究分野はシステム工学

次に私の研究分野についてお話します。最近、よく工学は総合的な学問だと言われます。ある専門分野で新しいものが発見されると、それが基礎研究につながり、さらに応用研究へと進み、やがて社会に役立つという一連の流れが自然に発生するということは、最近とはみに少なくなってきました。また、環境やエネルギーなど私たちが直面している問題を解決するためには、一つの分野のブレイクスルーだけでは対応できなくなってきました。そこでは、さまざまな分野の考え方や技術が必要となってきました。このための方法や、それに必要な技術開発を進めていく分野がシステム工学という分野です。

私の専門分野はこのシステム工学です。システム工学では、いくつかのものの、これはハードでもソフトでも何でも構いませんが、と

にかく幾つかのものが集まって、全体としてある目的を持っているものをシステムと呼んでいます。したがって、工場や企業、はもちろんのこと、情報や電力、水などのネットワークや、生物も生態系も、社会の仕組みもすべてシステムということになります。目的を持った複数のものの集まりであれば、それはシステムということになります。これらのシステムをいかにうまく開発していくか、いかにうまく目的を達成するように個々の要素と全体を設計、計画して運用していくかということを考えるのがシステム工学です。

プロセスシステム工学

物を作るシステムを生産システムといいますが、その中でも特に原料や材料に物理的な、あるいは化学的な変化を加えて付加価値の高い製品を作り出すシステムをプロセスシステムといいます。そして、プロセスシステムを対象としたシステム工学をプロセスシステム



ム工学と呼んでいます。このプロセスシステム工学が一つの工学分野として米国で誕生したのは、エネルギー問題が世界的に大きな問題となり始めたのは、1970年頃のことです。したがって、プロセスシステム工学の当初の課題は、主に省資源・エネルギーや安全確保のための計画や設計、制御の問題に限られていました。その後、対象は人や自然に係るシステムにまで広がってきました。また、その大きさも、一方では地球規模に、また一方では机の上に乗る化学プラントをめざしたマイクロ化学プラント規模へ

と、時間的にも空間的にもその範囲がどんどん広がってきました。そしてそれとともに、社会的・人間的な分野やサイエンスの分野での知識と、それらの分野との協力が必要となってきました。プロセスシステム工学分野の最大の特徴、醍醐味は、問題によって、たとえ同じ対象であっても、それをマクロにもミクロにもとらえることができるモデリングにあります。

連続システムと 離散型システム

このなかで、現在進めている研究の一つに離散型システムの計画や設計、制御に関するものがあります。システムを分類するときの一つの見方として、システムの状態が時間に関して連続的に変化していくか、または途切れ途切れにいわゆる離散的に変化していくかによって、分類する見方があります。前者を連続システム、後者を離散型システムといいます。たと

えば、部屋の温度を制御する場合、温度は物理量ですので時間とともに連続的に変化します。したがって、システムは連続システムとみなすことができます。しかし、見方を変えて、室温を「低い」、「適温」、「高い」の3値でとらえるならば、システムの状態は連続的に変化するのではなく、「低い」から「適温」にあるとき瞬時に変化し、さらに温度が上がると、「適温」から「高い」に変化することになります。このようなとらえ方をすると、システムは離散型システムということになります。この瞬時の状態変化を「事象」といいます。離散型システムはいはば事象が離散的に発生していくことによって状態が変化していくシステムということになります。対象をどちらのシステムとしてとらえるかは、そのときの問題によって異なってきます。しかし、原料や材料、部品が流れていつて複数の機械や装置で加工や処理される機械加工システムや化学バッチプラント、鉄鋼プラント、情報通信などのネットワークシステム、さらには論理的なシステムなどは離散型システムとして扱った方がよいとされています。しかし、連続システムに比べると、そのためのモデリング手

原・材料に物理・化学的变化を加えて付加価値の高い製品を創ることをプロセスシステムと。

どんなモデルを使えばどのようなことが、どこまで明らかになるか、どこまで使えるか・

法や、計画や設計、制御のための方法論が未だないのが現状です。これの開発が現在の一つの研究課題です。

マイクロ化学プラント

二つめの研究として、先ほど紹介しましたマイクロ化学プラントに関するものがあります。環境への負荷を軽減するため、もし、必

要な物質を必要なとき、必要な量だけ作れたらどんなにすばらしいことでしょう。それも付加価値の高いものを、コンビナートにあるプラントでなく、たとえば机の上で作れたとしたら。これは夢のような話ですが、現在すでに、ちょうどおもちやのレゴブロックのように、反応機能を持ったもの、分離機能を持ったもの、熱交換機能を持ったもの、といういろいろな機能を持ったデバイスをあらかじめ作っておき、必要なときに必要なものだけ集めてきてそれらを組み立てて化学プラントを作るといった試みがなされています。しかし、このためには、微小なところで物質がどう流れるか、どう拡散していくかといっ

た物理現象や化学現象を明らかにし、モデル化しておくことが必要となります。私自身はもともと化学工学の出身ですが、化学工学は本来はスケールアップの学問でしたが、この課題は個々のデバイスが持っている機能からシステム全体の機能をどう作り出すかというナンバリングアップの問題ということになります。

加藤 少具体的なお話をいただけるとありがたいのですが。例えば、どんなシステムを設計し、どういう形で表現されているのか、事例的なことを。

どんなモデルをつくるか

小野木 わかりました。離散型システムに係る課題のものについてお話しします。離散型システムの大きな課題は、システムの動きを表すことができる方法、モデルですが、それ未だに確固たるものがないことです。物理量が変化していく連続システムでは、その動作は微分方程式などを使って精度よく

表わすことができます。しかし、ものや情報が同時に流れていくシステムでは、しかも時には同期を取りながら、時には独立に流れていくシステムでは、その動作すら正しく表現できていないのが現状です。したがって、この種の研究の面白い点は、どのようなモデルを使うと対象システムのどのようなことがどこまで明らかになるか、またそれがどこまで計画や設計、制御に使えるかということをお調べすることにあります。そこでは問題に応じてモデル化能力と解析能力のトレードオフが必要となります。このようななかで、機械産業や化学産業を対象に、まず初めにこの種のシステムのモデルとして、コンピュータのOSの設計モデルとして開発されたベトリネットを使い、その上で、物の流れの制御が中心となるシステムの設計問題を定式化し、その解法を検討してみました。そしてそれを使って得られた解から、制御するためのコントローラを自動生成する制御系開発支援ツールのプロトタイプを開発してみました。これらの一連の研究は、多くの関連企業や計装メーカーの協力の下で進めたものでした。

また、ある鉄鋼プラントでは、



その動作を再現するシミュレータを開発し、そのシミュレータを使ってこのままプラントの操作が続いていったら将来どのようなことが起きるかを推定しながら、それと現在のプラントの状態および実績を付き合わせながら、計画を少しずつ変えていくことによって、いろいろな不確定性に対応できる運転システムの開発を行いました。このシミュレータの開発には、企業と共同で半年あまり費やしました。

加藤 システムの話は非常に興味があります。身近なところでは生協に物を入れるときにも同じような問題があります。そこに経験のある人がいるとすぐにできて、そうじゃないと何でこんなに遅いだろうと思ったりします。

小野木 物流関係のシステムは分散型システムの代表的なものです。したがって、全く同じ問題があると思います。

加藤 何かこういったパターンがあるとかいったものを元に研究されているのですか。

「次元の呪い」

小野木 このタイプの問題の厄介な点は、そのほとんどが組合せ問題になるということです。例えば仮に10種類の物を作るときに、その作り方の順番は10の階乗、すなわち360万通りあります。ただか10個の物を作るのにそれだけの作り方があります。ところが現実のプラントでは、数百を超える違うタイプの製品を作ることもあり、こうなるともうお手上げとなります。システム工学では、このように問題の規模が大きくなると途端に手に負えなくなってしまう現象を「次元の呪い」と言います。分散型システムの一つの課題は、いかにしてこの「次元の呪い」を回避するかにあります。パターンにあらかじめ分けておくのも、これを回避する一つの方策です。このあたりについては、やはり面白い問題がいっぱいあります。

加藤 このあたりで、名古屋大学の現状とこれから、工学研究科の

今後についてお聞きしたいと思います。

流動型大学院システム

小野木 工学研究科は、できるだけ広い物の見方をすることができ、教育を行うため、大学院重点化の際に、学部「のつくり」を大きく変えました。当時の18学科を、5つの学科に大きくくりよにまとめました。そして、この5学科のうちの一つに入学した後、2年時で13の履修コースに振り分けるという体制に変えました。

それとともに、大学院の「つくり」も、従来の基幹的で伝統的な教育研究を行う基幹分野と、それを横につなぐ学際分野——これはちょうど縦糸と横糸の関係、私たちはこれを流動型大学院システムと呼びます——に変えました。基幹分野の18専攻と、それらを横につなぐ7専攻です。そして、学部ではできるだけ基礎に重きを置いた教育を、大学院では横糸である学際分野をうまく使って、できる

だけ広い物の見方ができるようなカリキュラムに変えました。その後、環境学研究科、情報科学研究科ができて、専攻の数が少し減りました。また、法人化とともに大学院でも学生たちに広い視野をつけさせたいと、基幹分野を大きくし（大専攻といいます）、現在では縦糸である基幹分野が6専攻、横糸である学際分野が6専攻の体制をとっています。

工学研究科では、2年前に大学院重点化がうまくいっているかどうか調べるために自己評価を実施しました。その際、先生方や学生諸君、卒業生の皆さんにアンケート調査を行いました。それによれば研究分野は確かに広がっているようです。ただし学生の教育が広がっているかというところでは「そこはどうか」ということでした。実のある広がりのある教育を実施することは今後の大きな課題だと思っています。それから、大専攻にしたために、逆に各分野のアイデンティティが少し不明になってきたところもあります。これは工学の各領域間の壁がどんどん低くなっているためやむをえない点もあります。現在工学研究科は大専攻と小専攻が並立した形で動いています。

分散型システムの一つの課題は、いかにしてこの「次元の呪い」を回避するかにあります。

学生の皆さんには、広い視点から物事を判断でき、異なる意見にも耳を傾ける度量を。

流動型大学院システムの大きな特徴は、時代や社会の要請にともなう縦系と横系を自由に作り変えることができることにあります。しかし、実際には、重点化以来そのまま来ているのが現状です。その構成を今一度、見直すことも必要になるかもしれません。法人化の元々の趣旨は、国立大学時代の規制を緩和して、各大学が個性のある大学を作ること

でしたが、個性のある大学というのは、やはり教育や研究をどうとらえるか、学問をどうとらえるかというところから出てくるはずです。流動型大学院システムはこれを行うのに適した仕組みと考えています。

もつと共同研究を盛んに

他大学から赴任されてこられる



先生方に、名古屋大学はものづくりの地にあるから、さぞかし外部との共同研究が盛んだろうと思つて来ましたが、外部との共同研究はそんなに多くありませんね、とよく言われます。運営費交付金が毎年カットされていくなかで、研究費をどう確保するかは、工学研究科にとって重要

な課題です。部資金に頼らざるをえないのが現状ですので、名古屋の地を活かしたこのための仕組みづくりは、最重要課題の一つと考えています。

運営面では、工学研究科では法人化とともに、毎月開催していた教授会を年5回に減らしました。そして、それまで教授会で行っていた教員人事や学位審査を、代議委員会としての専攻長・学科長会議で行うこととしました。工学研究科にたくさんあった委員会も6つの大きな委員会に統合しました。先生方の負担もかなり減つたはずですが、逆に先生方が顔を合わせる機会が減つたために、全学の動きが分からなくなつたという声も聞えてきています。情報の風通しをどうよくするか、先生方の横のつながりをどう確保するかについては至急検討すべき事柄だと思います。

加藤 いまの研究科の構成から新たに増やしたり、特に今後変わることはありますか。

小野木 研究科の構成の変更につ

いては、いまのところ具体的に考えていません。ただし、運営面については、必要であれば教授会の内容、在り方について検討することが必要になるかと思っています。

大学院後期課程の充実

加藤 学生とか院生や留学生の受け入れは今まで通りですか。カリキュラムは変わりますか。

小野木 大きくは変わりませんが、これからは少し留学生を増やすことも必要ではと考えています。工学研究科は重点化以降、大学院前期課程は一時の勢いはなくなつたとはいえ、まだ定員の1・4・1・5倍の志望者を集めています。しかし、後期課程は定員の0・7倍程度の充足率ですので、これについては早急に対応することが必要です。このための、一つの対策として、留学生の積極的な確保を考えています。

学生—広い視野を身につけて

加藤 学部卒業生の、相当数が大学院に進学すると思うのですが、学生の皆さんへのアドバイスをお願いします。

小野木 いまは、名古屋大学の工

学研究科に直接進学するのは8割を上回っています。他大学への進学者も含めると、8・5割が大学院に進学します。

学生の皆さんには学部、大学院を問わず、ぜひとも広い視野を身に付け、広い視点から物事が判断できる専門家になってほしいと思います。また、たとえ自分と意見が異なっているとしても、他者の意見にも耳を傾けることができる度量を持つてほしいと思います。

研究インターンシップ

加藤 院生の就職はどうなんですか。

小野木 いまは絶好調です。通常ですと今の時期、前期課程の採用時期は終わっていますが、大きな企業から「まだ決まっていない学生はいませんか」と求人が来ているのが現状です。

いま企業が好調ですし、とくにこの地方には好調な企業がひしめいています。したがって、大

学院に進学したときから後期課程には進学せず前期課程終了時には就職すると決めている学生も7割以上に上ります。これが後期課程の定員割れの大きい原因の一つになっています。ただし、企業の中には、ぜひ後期課程の学生が欲しいというところもあります。3年前からいくつかの企業と研究インターンシップを始めました。これは、もともとは後期課程の学生を対象に始めたものでありました。

従来のインターンシップの目的は就業経験ですが、これは企業から研究テーマを提案していただき、企業と大学が一緒に研究指導を行うものです。期間も2カ月から6カ月と通常のインターンシップに比べ長く、受入れ形態はそれぞれテーマに任されています。例えば企業で1週間ほどインターンシップを行い、その時までの研究結果を大学に持ち帰り、大学の方で検討し、期間をおいてまた企業に出向くなど、いろいろな形態が考えられます。また、場合によっては後期課程を修了した時点でそ

の企業に採用、ということも考えられます。さらに、そこから共同研究に発展する場合もあります。今年度は現段階で、6社と協定を結び8月から本格実施に入ります。

後期課程の進学率が低い最大の原因は、3年たつてどうなるか、将来に不安があるというのが最大の原因であろうと考えられます。研究インターンシップはこれを解消するという意味もあります。企業にはこの趣旨に賛同していただいた上で、お願いしています。

加藤 工学系の建物関係では、今度3号館で耐震工事がありますが、それ以外の建物では予定がありませんか。

小野木 いま概算要求を出しています。4号館、5号館が次の改修の対象ですが、二つ同時にはできません。本来は4号館が先でしたが、四谷通りに面していて、4号館を今改修してしまうとその形が固定してしまうということで、5号館を先に改修することとしました。本部の意向もあって、4号館

については、例えば高層のものにするとか、あるいは大学の窓口にふさわしいものにするという構想を今から立てることとなります。道路や地下鉄へのアクセスもよいため、本部と相談しながらぜひともよい計画を立てたいと考えています。

加藤 結構離れている6号館とかがありますね。あれは離れた状態ですか。

小野木 もちろん順番に改修の対象には上がっています。

加藤 研究施設以外にも新しい建物のできる予定はありませんか。

小野木 去年、赤崎記念研究館が建ちました。今のところ学内センターとして二つ、一つは、工学研究科も関係していますが全学の組織として、昨年、小型シンクロtron光研究センターが立ち上がりました。そして、この4月にプラズマナノ工学研究センターが立ち上がりました。ただし、建物が新しくついたという訳ではありません。

生協の役割

加藤 最後に、生協との関わりで、今思われていること、要望などあればお聞きしたいです。

企業と研究インターンシップを始めました。 大学院後期課程の充実という意味もあります。

生協は大学の重要な構成メンバーであり、生協の資産、人のつながりは大学の大きな財産。



小野木 生協がこれまで大学の中で果たしてきた役割は極めて大きいと思います。これからも、衣食住に限らず教育研究へのサービスやサポートの充実をぜひお願いしたいと思います。その際、情報があふれている昨今、サービスやサポートの実施に当たっては有意義な情報の選択が、すなわちサービスやサポートの価値が極めて重要になってきています。また、物については特に安全、安心面を第一にお願いします。期待しております。

もう一つ、大学業務のスリム化は大学にとって極めて重要なことです。生協は大学の重要な構成メンバーの一つです。生協もいろいろなノウハウをお持ちですので、大学の運営面にも積極的に関与していただき、いろいろな提案をしていただければと思っています。生協がご持ちの資産、人のつながりは大学にとっても大きな財産だと思います。出張手配なども生協の方で一括して、ということも將來あるかと思っています。

今井 最近、土曜日とか日曜日に、図書館が開いていたり、博物館が開いていたりして、大学を訪れる方が結構多くいらしています。土・日の大学開放にたいして、私たち生協はいまのところ十分な対応ができていません。難しい問題があるのかもしれないですが、なんとかしたいという思いをもっています。これから大学が社会とつながりを強くしていくことは大事なことで、思

います。私もとも大学と一緒に何かできないかと思っています。生協——

生協—— 大学の構成メンバーとして

小野木 おっしゃるとおりです。大学は社会の一員です。先ほども言いましたように、生協はその大学の一つの構成メンバーです。土曜、日曜日の開放は市民にとっても本当にありがたいと思います。

今井 最近IB館をお使いになれる学会が増えて、日曜日でもなるとかしたいと思っていたところなんです。もう一つ、今年、新しく学内予算で奨学金という大学院の制度を設けられました。私たちも何かお役立ちができないかなと思っています。大学院生への生活支援というところについて、大学と一緒に何かできないかなと思います。

例えば、基金を作るとか……

小野木 確かに、他大学では生協で基金を持っているところもあるかと聞いています。

今井 はい、早稲田とか。あのよ

うなものが私どもとしてはやれないかなと思っています。名古屋大学の集めておられる名古屋大学基金、そこには寄付をさせていただいています。

小野木 さっきIB館の話ができましたけど、IBカフェが夜遅くまで営業しているのは非常にありがたいことですが、あそこで働いている方々は？

今井 大学院の学生です。留学生も含めて。ほかの食堂や売店も含めて、名大生協のお店で100名くらいの大学院・留学生の方が、特に夜間のお仕事、お店のスタッフとしてやられています。よくご存知の名古屋大学の学生の方なら私たちも安心できます。インターシップとまではいきませんが支援はできているかなと思っています。

小野木 それをぜひ広げていただければと思います。

一同 長時間ありがとうございます。

(インタビュアーは6月7日、工学研究科長室にて。聞き手は、加藤肇理事、室長、今井信彦専務理事、皆川清教職員委員会委員長、箕浦昌之常務理事(写真)。本文、見出しの責任は「かけはし」編集委員会にあります)

瑞浪・中国人殉難者慰霊祭と化石博物館見学

一緒に平和について学びましょう

瑞浪市の戸狩山（通称：化石山）の山頂に日中不再戦の誓いという碑が建っています。満州事変の発端となった柳条湖事件の9月18日に近い日曜日に、この碑の前で中国人殉難者慰霊祭が行われています。この化石山の麓には戦時中空爆にも強い地下軍需工場を造ろうと、昭和19年から20年にかけて日本軍による強制連行された朝鮮人と中国人を使って掘らせた地下壕があります。ここでの労働は1日2交代で24時間働かせて与えられる食事は小麦粉とこめかで出来た粗末なパンを1日に3個だけだったそうです。重労働と栄養失調により39名もの中国人労働者がこの地でなくなりました。

教職委員委員会では毎年、この慰霊祭への参加を組合員に呼びかけています。今年も慰霊祭参加と地下壕と隣接する瑞浪市化石博物館を見学します。一度参加してみませんか。

開催日：**9月16日**（日）

参加費：**無料**

集合・出発：**9時30分**名古屋大学博物館前

午前中に化石博物館の見学

昼食（自己負担）

化石山・地下壕見学

瑞浪市明世町戸狩山（化石山）

日中不再戦の誓い碑で中国殉難者慰霊祭に参加

慰霊祭終了後：参加者の感想交流

17時 大学帰着予定

持ち物：長靴、懐中電灯、ある方はヘルメットをご持参ください。

問い合わせ先：kyoshoku-c[coop.nagoya-u.ac.jp]

参加申込：<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/application.html>



エネルギーシユなオーバビー博士から 明日への希望と勇気を頂いた

6月6日、午後6時から、法学部第三講義室にて「国際平和と憲法9条」と題してチャールズ・オーバビー博士講演会が開催され、名大内外から100名を超える参加がありました。

オーバビー博士は通訳も含んで約1時間の講演の中で、九条との出会い、米国青年の現状などを話された後、10億ドル集めて世界中に憲法九条を知らせる広告を出そうという提案をされました。この提案は最初とても突飛な印象を受けましたが、運動の世界的な広がりと効果を考

えると、意外と現実的な提案なのではないかと思いました。

平和のための退役軍人会による合衆国憲法修正案の取り組みを具体例としてあげ、100点満点ではないけれども50点でも前進できれば柔軟に対処していくことの重要性も指摘されました。

国際的な安全保障の観点から日本の憲法九条の有用性を積極的に訴えていらつしやるM・シーゲルさんと、日本の原水禁運動と世界の良心的科学者の平和運動を支えておられる沢田昭二名大名誉教授に、それぞれの立場からコメントをいただいたことで、オーバビー博士の主張が今日の世界の平和運動の中でどのような役割を担っているかを立体的に理解し、日本の憲法九条を守る運動が世界の平和に大きく貢献していることを知ることができました。

憲法九条は人類が到達した最も崇高な理想の一つであり、人類の未来を明るくする最も有力な思想です。その憲法九条を直接的に守っている日本人として

の誇りと責任を改めて感じることができました。

最後に一言！ 今回の来日でオーバビーさんは20歳若返った！ ととても喜んでいました。来日前は自分の声がとどかないのではないかと逡巡されていたことが嘘のようです。今回の企画は、私たちが励まされただけではなく、オーバビーさん自身も大いに元気がでるものになったことを申し添えます。

会場でのカンパ要請にも関わらず40、365円集まりました。このような多大な協力をいただき、参加された皆様にも重ねて感謝いたします。

(文責・名大九条の会 河合利秀)

参加者の感想から

・「高齢にもかかわらず、エネルギーシユに一生懸命、私達に九条の大切さを訴えてくださるオーバビー博士に感動しました。(中略)私達は生活の中で九条がしっかりとその役割を果たしていることを先生の仕事の話でもよくわかりました。(中略)この九条を知らせ、世界か



らも声をあげていつてほしい。まず広げること。世界の財産、平和運動に貢献できるという高い理念で頑張ります。

・九条についてしっかりと学び、自分なりに考えて、九条をどうしたらよいかの答えをだしたい。

・中国からの留学生です。日本の九条は、東アジアの最も重要な法律です。(中略)中国人に平和を愛している日本人のことをこれから伝えていきたいです。

ミニ平和資料館に30名来場 映画「日本の青空」上映会に250名が鑑賞

名古屋大学平和憲章委員会は名大祭期間中に二つの企画を開催しました。

一つ目は、毎年名大祭で開催しているミニ平和資料館です。全学教育棟S17教室において6月9・10日の2日間開催しました。今年のミニ平和資料館は昨年同様の生協ユニセフ班によるユニセフ活動の展示とフェアトレード商品の説明と販売に加え、新たに千種区九条の会の取り組みを紹介しました。

千種区九条の会は千種区内の今も残る戦争の傷跡を地図とその写真でもって関連づけて紹介していただいたことと、戦争体験を若い人に伝えたいという九条の会の方からの提案で9日午前1人、午後2人の方に貴重な



話題となった千種区内の戦争の傷跡の展示

体験を語っていただきました。

来場されたピースあいちプロデューサーの吉田さんから千種区から名東区への戦跡を巡る散策コース（仮題・平和の散歩道）の提案がされ、一度下見をかねてこのコースを歩くことになりました。

10日は憲法問題に関するビデオ上映会を開催いたしました。両日とも天候の悪い中、300名を超える来場者がありました。

二つ目の取り組みは、10日午後からIB電子情報館大講義室にて映画「日本の青空」の上映会の開催です。

日本の憲法はGHQによる押しつけの憲法といわれていますが、この「日本の青空」は憲法草案に日本の憲法学者が大きく関わった事実を浮き彫りにした映画で現在、日本各地で自主上映が展開されているものです。

映画の始まる前には大澤豊監督の舞台挨拶もあり、第一部と第二部の間には、長谷川正安名古屋大学名誉教授による特別講演もありの充実した内容の企画となり1・2部合計で250名の方が映画を鑑賞されました。

6月度理事会報告

6月18日18時00分からフレンドリー南部に於いて6月度理事会が開催されました。

協議決定事項

1、北部厚生会館改装について
改装期間について

1日〜17日とします。
改装期間中の対応について

購買部においては、この期間利用の最も多いコンビニと文具につきましては理系ショップと南部購買で対応いたします。

旅行サービスについては南部厚生会館2階南部旅行サービスの隣で臨時営業いたします。JRの専用端末は移動が困難なためJR券につきましては東海事業連合からの取り寄せで対応いたします。

テナント対応について
・時計めがねコーナー

場所を移動し引き続き営業いたします。

クリーニング

改装に伴い撤去いたします。

・DPEカメラコーナー

デジタルカメラの普及とともに利用が激減してまいりますので改装に伴い撤去いたします。

2、就職ジョブセッションの開催について

昨年也好評であった名古屋大

学ジョブセッションを10月29・30日の2日間キャッスルプラザ名古屋を会場に開催いたします。

協議事項

1、北部改装に伴う概算金額と投資に伴う回収に関する検討

冷蔵庫（1000万円）天井・床・壁改修（300万円）照明灯（600万円）棚・カウンター（1000万円）レジの更新（500万円）などで約6,000万円を超える見積もりが予想されます。減価償却で棚（5年）床・壁・天井（10年）電気・給排水（15年）を処理します。閉店時の収入減は800万円程度を予算作成時に考慮しています。9月下旬オープンの際には更なる利用をお待ちしています。

2、総代会開催結果と総括
選出総代203名、実出席93名、書面議決参加72名、代理9名の出席で06活動総括と07方針、06決算、欠損金処理案、07予算と役員報酬の決定などすべての議案を賛成多数で可決され、役員候補はすべて信任されました。

報告事項

各組織委員会の活動と5月の供給で購買と旅行サービスが好調な決算が報告され、20時10分に閉会しました。

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ①

オサゾウムシ科

全学技術センター 井上晶次

ゾウムシとはどんな虫かを少し紹介してみよう。何とかゾウムシという名前がついているよく知られているのは、コクゾウムシ、オオゾウムシでしょう。写真のように口が長いという特徴から動物のゾウさんから名前をいただいています。この口のことを専門用語では、吻（ふ

ん）といい、たとえば吻は先端に向かって広がる、触角は吻の中央付近につくというようなことが図鑑に記述されています。もうひとつの特徴は、写真2のように触角が「く」の字状になっていることです。

写真1は東山キャンパスおよびその周辺で採集したオサゾウムシ科のゾウムシです。右側上はコクゾウムシ、左側からオオゾウムシ、トホシオサゾウムシ、ササコクゾウムシです。

オオゾウムシは体長25mm程度で日本のゾウムシで一番大きいゾウムシです。林の中で、倒れた木をひっくり返すとついていることがあります。最近名大の側溝はきちんとふたがされていますが、ふたがなかった頃は時々側溝に落ちて逃げ出せないのか、もぞもぞ歩いているのを見かけたこともあります。他の場所でも側溝からゾウムシを採集した経験があるため、側溝にふたがないと覗き込む習慣がついてしまいました。



写真1 4種のオサゾウムシ写真



写真2 オサゾウムシの頭部



写真4
ササコクゾウムシ



写真3
コクゾウムシ

コクゾウムシ（写真3）は体長2〜3mm程度で、全体に赤褐色、背中に少し模様があります。昔はこの家庭でも米びつの中に潜んでいて悩まされた経験がある方も多いでしょう。東山キャンパスでは落ち葉に埋もれかけた枯れ枝をつぶしてのその中から採集しました。最近自宅の米から採集できませんでした。しっかり消毒してコクゾウムシも食えない米を食べているのでしょうか。

ササコクゾウムシ（写真4）はコクゾウムシよりやや大きく細長い形をしています。褐色地に黄色の田の字模様がありその違いは明瞭です。まだ東山キャンパスで採集したことはありませんが、平和公園では竹がはびこるのを防ぐため定期的に「なごや東山の森づくりの会」の方たちが竹きりを行い林の中に積み上げてあります。その積み上げてある竹にたくさん棲息しています。

トホシオザゾウムシは7mm程度で、赤褐色に黒い紋があります。東山キャンパスでも平和公園でもツユクサの葉上にいるのを時々見かけることがあります。

そのほか、東山キャンパスではコササコクゾウムシを1頭採集しています。ササコクゾウムシに非常によく似ていてその区別はかなり困難ですが、触角の先端の模様で区別します。当初はササコクゾウムシとしていたところ、ある専門家からコササコクゾウムシであることを教えていただきました。採集した場所は、グリーンサロン東山の側の竹やぶです。その後何度も同じ場所で採集を試みましたがまったく採集できません。

教職員委員会活動日誌（2007年5・6月）

月 日	事 項	場 所
5月 7日（月）	5月度常任理事会	ゆ〜どん
14日（月）	5月度理事会	フレンドリィ南部
18日（金）	平和憲章委員会	組合書記局
21日（月）	5月度教職員委員会	IBカフェ
23日（水）	総代会最終打ち合わせ	ゆ〜どん
24日（木）	総代会リハーサル	南部食堂ホール
25日（金）	第79回通常総代会	南部食堂ホール
27日（日）	東海地域センター・東海事業連合合同総会	愛知東邦大学
31日（木）	東海地域センター教職員委員会三役会議	ホテル「ル・ウエスト」
6月 4日（月）	6月度常任理事会	ゆ〜どん
6日（水）	チャールズ・オーバピー博士講演会	法学部第3講義室
7日（木）	工学研究科長インタビュー	工学研究科長室
7日（木）	東海地域センター地域部会	東海会館
9・10日	名大祭・ミニ平和資料館開催	全学教育棟S17教室
10日（日）	名大祭有志企画映画「日本の青空」上映会	IB電子情報館大講義室
11日（月）	6月度教職員委員会	IBカフェ
15日（金）	平和憲章委員会	組合書記局
18日（月）	6月度理事会	フレンドリィ南部
21日（木）	総代・組合員懇談会	グリーンサロン東山
23日（土）	東海地域センター理事会	東海会館
25～28日	組合員交流企画	
	25日 うたごえ喫茶 in IB Cafe	IBカフェ
	26・27日 映画「フラガール」上映会	ゆ〜どん・カフェフロンテ
	28日 ピアガーデン	ゆ〜どん
28日（木）	名古屋大学・生協懇談会	グリーンサロン東山

ニユースに「喝」!

不正介護サービス

業界ではよく知られていたというが、私は今度のニユースを聞くまでは知らなかった。コムスンなる会社、全国に介護サービス網を張り巡らしている。これがまともにやってくれているなら何も問題はないが、厚生労働省が不正の発覚を理由に事業者指定の打ち切りを通告したという。すると、問髪を入れずに、その親会社グッドウィルは同系列の「日本シルバーサービス」に事業を全て譲渡すると発表した。しかも、この日本シルバーサービスというのは、つい先頃までコムスンの子会社の位置にあったというのを問題が発覚して調査されている最中、別の系列に移し替え、人事も入れ替えたという。まさに脱法行為と言われても何も言い訳できない仕業である。しかし、識者と言われるある人は、これを法的に

は問題はないので、訴えられると裁判になるだろうなどと言っていたのは、如何にも拘子定規な法解釈で、人間の生きた血が通っているものとは思えなかった。法律のために人間があるのではない。人間のために法律はあるのだ。以前こんな趣旨のことを言ったところ、こっぴどく叱られた経験があるが、私の信念は変わらない。それはまづいと指摘を受け、その事業譲渡を凍結した親会社やコムスンの方がまだその法律専門家よりまともな感覚を持っていたということだ。

今後当事者になることが予想された地方自治体の何人かの知事が、断じて脱法行為は許さないと行っていたのは頼もしく聞こえた。この問題は、実際、今介護を受けている人が沢山いるのだから、変なことになったら、

そういった方々が大変迷惑を蒙るところだったから、今晚の夕刊に、「全従業員と共にグループ外に一括売却」と有るのを見て、まずまず良かったと思った。ただ、どうなるかは未だ予断を許さない。

この問題は根が深いと思う。福祉を食い物にしているのである。以前「福祉はおいしい」という記事を書いた覚えがある。これは、建物を建てるのに補助金を詐取したというものだった。大体、この福祉事業を金儲けの対象にすることが間違っているとは思いますが、こういうサービスを、公的な機関がやれば一層いい加減なことになりそうだと

社会保険庁

今度の騒ぎは一体どこでどういう事になって起こったのか、その経緯をきちんと説明して欲しいと思う。

5000万件にものぼる不明な書類があるというのだ。誰が支払ったのか分からなくなっているという。裏返せば、保険料を払っているのに払っていないことになっている人がいっぱいいるということだ、それで大騒

から、企業にやらせなければならぬのだろうが、こういう悪徳業者が出てくるから中々始末が悪い。グッドウィルというのは冗談みたいだ。それで、性悪説でやらざるを得ないのかも知れないが、真面目にやっている人たちが大変迷惑を蒙っている。とにかくコムスンは4億円からの不正請求をしていたというのだから、呆れるほかない。もつと真面目にやって欲しい。全て金の世の中なのかも知れないが、せめてこういった介護・福祉と言った方面では、こういう不祥事を聞きたくないものだ。(田 2007.6.9記)

ぎ。信用していたのに、一体何を遣っているのだ、国のやることだと思つて任せたことだ、今更領収証をと言つたつて何十年も前の物があるわけがない、呆れて物が言えない、等々の声が聞こえている。

社会保険庁も大騒ぎ、急遽問い合わせに土日も返上して当たると言い、その専用にフリーダイヤルも設けた。これが明るみ

に出て僅かの期間に、すでに40万人からの人が確かめに押しかけたという。途中でコンピュータもダウンして、折角休みを返上してきた人も肩すかしを食ったりしている。

このほかにも手書きの書類で1430万件もの書類が放置され、コンピュータに入力されていないという。これらの中には、もう亡くなってしまった人も沢山いるだろう。政府与党は、これが参議院選挙の争点となってマイナスになるのを防ぐために、急遽請求に関しての時効を停止する法案を議員立法で成立させた。如何にもあわてふためいた様子である。これも、近づいた選挙のお陰であり、そうでもなければ、知らぬ顔のはんべいで、請求しない方が悪かったですまされてしまっていただろう。

この背景には、年金のシステムの複雑さがある。素人には皆目分らない。送られてくる書類を見てもああそうですかと言っているほかない。分からない方が悪いと言わんばかり。私に送られてくる物を見ても、色々な数字が並んでいるが一体それがどういう意味があるのは余り説明はない。何回も通知を

貰っているがそのたび毎に支給金額が減っていることだけが分かる。何故減るのは分らない。どうせ、殆ど支給停止になっているから、特別問題はないといふものの、不可思議である。これで生活している人にとつては、まさに死活問題である。

どうやら、社会保険庁の役人達の証言から、コンピュータに移し替えるときの仕事がいい加減だったことが浮かび上がっている。我々には、一々名前に振り仮名を付けさせるのに、人の

緑 資 源 機 構

この言葉だけを聞けば、全く悪いイメージは湧かない。しかし、今やこの緑資源機構のイメージはガタ落ち、官製談合ここに極まったという感じさえ持ってきて未だ全容は我々には想像が付かない。よくもよくも税金を無駄にしてくれたものである。談合を拒否したり、異を唱えたりすれば忽ち入札から閉め出されてしまうから、業者はたまつたものではない。唯々諸々と機構を取り仕切る天下り役人の言

名前を間違つて読んだり、入力したりしていたらしい。勤め先を変えた場合が鬼門だ。それも、個人的にはきちんと書類を出して整理しているはずなのに、肝心の役所の方がずさんだった。こういう事を許していたのは一体誰の責任になるのだろうか。是非是非はつきりして欲しいものである。真面目な国民は本当に怒っているし、心配している。これを又不逞の輩の利益になるようなことだけはしないで欲しい。(田 2007・6・14記)

うことを聞く。そして、受注したらその見返りとして相当な金額を貢ぐ。その金が一体どうなったのだろうか。是非、全額、関わった連中から国庫に返還させて欲しい。岐阜県の裏金問題では、関わりもなかった連中が返還を拒否しているのは尤もである。今度の場合、返還させる事になれば、関わりのない者にまで負担をさせてはならない。是非、金の亡者は金で償いをさせねばならない。

その折しも、昨年来政治資金

の問題で疑惑を持たれていた松岡農林水産大臣が自殺した。閣僚の自殺は例がないのだそうだ。自殺しなければならぬほど申し開きができぬことをなさつていたとしか言えまい。決して、自殺でチャラになる問題ではない。死んだ人をむち打たぬのは伝統かも知れないが、しかし、卑怯である。仕事はできる方だったらしい。それで、安部首相も罷免しなかったと言われるが、結果的に有能な人を亡くしてしまい、不正な金の動きがあつたとしたらそれも分からなくしてしまった。首相の罪は、この意味で大きい。

その後に据えられた赤城さん。お父さんは骨のある政治家だったことを覚えている。その赤城さんが大臣になった途端、やはり、よからぬ筋から金を受け取っているとかいえないとか、是非スツキリさせて欲しい。

別のことが一言。使いもしない林道を多額の税金をかけて作つたと報じられている。これは環境破壊にも通じる。そんな金があるなら、是非少しでも自転車専用道路を整備して欲しい。こちらは環境保護に繋がる。

(田 2007・6・15記)

飯田市のハナノキ

情報科学研究科 広木詔三

前号を最終回とするつもりであつた。だが、最終宣言をする字数のゆとりがなくなつてしまった。今回、あらためて最終回の宣言をしようと考えていた。

これから明日の月曜一眼目の授業の準備をしなければならぬ。来週の週末には出張を予定している。この原稿そのものが締め切りに間に合うかどうか怪しい。

翌週、ばったりと編集担当の箕浦さんと出会つてしまった。楽しみにしている人がいるからもつと続けて下さいと言われた。原稿の締め切りも、次の週明けまで延ばしていいという。最終の予定であつた原稿の書き出しは次のようにはじまつた。

桜の季節が過ぎると、真紅のサツキが咲き誇る季節となり、やがて紫陽花の映える梅雨どき

に入る。あつという間に夏が来て、おそらくあつと言う間に秋風が吹くのであらう。そして木枯らしが吹き、また年が変わる。そして私は名古屋大学を去る。もはや鏡ヶ池のソメイヨシノの開花を見ることもないだらう。

私はもう去年から実験室の整理を始めている。学生さんの残していった廃液がたくさんある。私自身が実験を行つていなかったから気づかなかつたのだ。書類上の手続きを取り、定期的にキャンパス内の処理場で運ぶ。硫酸・塩酸のたぐいは重炭酸ナトリウムで中和して流す。そのためリトマス試験紙なるものを購入した。初めのうちは恐る恐るであつたが、次第に慣れてくると中学校の理科の実験のようで楽しくなつてくる。未使用の薬品も多い。幸い、名古屋大学の環境安全衛生管理室を通して処理してもらえる。

ほぼ一年にわたる廃液・薬品・容器類の処理もあと7月の一回を残すのみとなつた。私の指導生だつた神谷君の残した廃液のみならず、はるか昔の教養部時代のものとおぼしきものも存在した。これから実験室の解体と処分をしなければならない。

図書の整理もある。仕上げなければならぬ論文も数えきれない。

翌週の金曜日、私は、これから飯田市に向かつて出発しなければならぬ。月曜の授業の準備も十分でない。原稿の続きは月曜の授業が終わつてから書く。日本生態学会中部地区大会での発表原稿の準備もそこそこに、私は研究室を後にした。

十六時少し前に名鉄バスセンターについて切符を買おうとしたら、十六時発のバスは満席だと言う。幸い十七時発の予約が取れたが、係員はすべて予約制ですよ、と怒つたように言う。予約の表示板を見ると十七時以外はすべて満席で、危ういところであつた。たかが飯田までと思つていたが、こんなに混むと

は予想もしなかつた。

発車したバスは名鉄バスセンターの暗い構内を出て百メートル道路へと出る。雨が激しく降っている。白川公園から若宮大通にかけて、こんなに緑があつたのかと驚くほど道路の両側に大木が並んでいる。街中とはとても思えない。矢場町から栄を通り、やがて名古屋高速道路に入る。まだ空は明るいけどんよりとしている。小牧城が少し霞んで見える。その後中央自動車道に入る。恵那山トンネルに近づく頃には、周りの景色は灰色の雲の世界だ。

神谷君とアベマキとクヌギの雑種の葉を採集に出かけたことがある。もう四年も前のことである。そのときは快晴で中央高速バスからの景色は明るく快適であつた。神谷君はウォークマンのイヤホンを耳にしていた。葉の採集が目的であるが、バスで出かけるのは楽しいと彼は言う。彼はほとんど毎日、朝から晩まで実験室で実験をしているか机に向かつている。アベマキとクヌギの雑種の遺伝子解

析を行っているのだ。

私の勧めた初歩的な解析法でなく、雑種の遺伝子マーカーを検出すると言う。私は保険として星状毛の計測を行う条件でそれを認めたのだった。アベマキの葉裏には肉眼では識別できない微小な枝分かれした毛状突起が無数に生えている。それに対して、クヌギの葉裏には星状毛は存在しない。雑種には星状毛がまばらに生えていて、中間の性質を示すのだ。

私は、一九七八年に、飯田から松本にかけてアベマキの分布を調べて歩いた。そのとき、アベマキとクヌギの中間的な個体を見た記憶があった。

神谷君とJRの電車に乗り、飯島駅で降り、丘陵の麓まで歩いてサンプリングを行った。どんぐりをつけている樹木から採集した葉裏をルーペを覗くと、まばらに毛がある。雑種だ。

驚いたことに、その後、神谷君はそれらの樹木の生育している生育環境の調査を行い出した。手塚先生に言われたからだと言う。私はそんな無駄なこと

は止めるように言った。天然に分布しているものならいざ知らず、人間が植栽した樹木の生育環境なんぞ調べてもまったく意味がないのである。糞まじめとも言える神谷君の恐るべき性格を知ったのはそれからずっと後のことであつたが、そのとき彼は私の指示に不満げであつた。

神谷君の遺伝子解析の実験は完全に失敗した。彼の先輩の小林君と違って、学部時代に実験の基礎を学んでいなかったせいもあるが、彼には遺伝子マーカーが検出できなかったのは予想していたことでもあつた。

二年目の夏に、神谷君は一人で飯田から松本まで葉のサンプリングを行った。飯田から松本にかけてのアベマキとクヌギの交雑帯の研究成果は、皮肉なことに遺伝子解析の結果ではなく、星状毛の数に基づくものであつた。驚くべきことに、アベマキの葉の星状毛は一平方センチメートルあたりおよそ三万八千個も存在するのである。

ところで、日本生態学会中部

地区大会の目玉は、ハナノキ自生地を観察するエクスカーションである。私は恵那山の西側の恵那市でハナノキの調査を行っているが、東側の飯田市のハナノキは見ることがない。恵那市の飯田町という高原地帯で長らくハナノキの調査を行っているので、飯田市のハナノキについてもおよその見当はつくのであるが、地理的な違いは微妙な生態の違いをもたらすので、やはり現地を見るにしくはない。

朝の七時に起床し、すぐ朝食をとり、八時半にはホテルを出発である。三十名以上の参加者があり、のろのろと昼過ぎまで現地を歩き回った。案内人はみな植物に詳しい。若い人たちは熱心に観察している。私の目的はハナノキである。恵那市の飯地町と飯田市では、同じ花崗岩地帯ではあるが、ハナノキの出現の仕方に微妙な違いが感じられた。飯田市ではハナノキの若い幼木が多く見られるのである。

なかなか理由が分からなかつたが、解散間際にはその理由の

見当がついた。木曽川周辺は谷の浸食が激しく、飯地町は浸食前線にあたっているのに対して、飯田市周辺は、天竜川の上流域の緩やかな浸食地帯なのである。浸食が緩やかであれば土壌の流失が妨げられ、ハナノキは養分の多い立地で急速に成長して生き残る確率が高まる。だが、仮説は簡単に作れるが、それを実証するには体力と時間が必要だ。

地区大会では、生態学会で聞く機会のない発表がいろいろと聞くことができた。一例を挙げると、クモの餌を別のクモが横取りするという興味深い話があつた。熱帯系のクモが温帯域に分布を広げて、温帯域に棲む異なる寄主の餌を素早奪うために足が短くなったという。面白い話は好奇心を蘇らせる。

懇親会では信州大の院生を相手に久しぶりに議論をし、大会ができた。復路の中央自動車道は、雨で相変わらずの灰色の世界であつたが、気分は充実していた。

勉強の仕方

我々の大学では、定期試験の期間が2週間も取られている。一方で、この頃、授業時間の確保に難儀している。特に、振り替え休日で休みになることの多い月曜日の講義回数が不足する。そのため、今年度は月曜日が休日になる日が4回も講義のある日とされた。世間では、休日なのに、我が大学では休日ではないのだ。極めて違和感が強い。ただ、不満はあるものの学生から目立った抗議の声はない。しかし、果たして、本当に不満がないのかは分からない。試験を時間割通り最終の週に行えば一週間で済むし、わざわざ煩瑣に時間割を組まなくてもいい。試験のための特別の時間割は、間違えたら大変だから、我々も緊張する。学生も同様だろう。これを作る教務課の人たちの作業も大変だろう。何より、2週間も掛かるのは時間の無駄だ。

ところがこの提案に対して、学生の立場にたつてという前提から、反対の意見があった。曰

く、中には、資格を取るための試験などを受ける学生の中には、一日に5時間も試験を受けることになる者もいるから、それは駄目だというのである。確かにそれもあろう。しかし、それは、別に考えてそのための日を1日か2日用意すればいい。ただ、根本的には、学生の勉強の仕方の問題だと思う。そう思ったので、次の日、授業時間中に、学生が、メモも取らず、漫然と坐っているだけの受講態度の問題と関連づけて学生に話し、意見を聞いた。

全員とは言わないが、多くの学生が聞きつばなし、分かたのか分からないのか、それとも我々には分からない。私は常に分からないことは直ぐに質問するようにと言っている。それに対して、聞こうとは思うけれども、もう少し聞けば分かるだろうと思うて黙っている内に終わってしまった。結局聞けずじまいになると言う学生の意見を聞いたことがあるので、若しそんな場合には、「それは後から

話すから」と言うので、何も遠慮せずに聞けと念も押した。多分どの教員も質問されて怒るようなことは無かろうと思うとも付け加えた。

大抵の教員は自分は知っていることを話す、学生がどの程度知っているのかは中々の確には分からないので、むしろ質問は好都合だろうと思うとも話した。勿論、人によって千差万別であることも事実だからこんな単純にはいくまいが、私はそう思うと話した。

私は、大学生生活の初年度に伊勢湾台風に襲われた。前期試験の前々日だった。校舎が使えなくなり、前期の試験は全て流れた。その結果、後期にはものす

ごい数の試験だった。確かに私は22科目有ったように記憶している。しかし、特別のことはなかった。試験前の時間に質問の時間を設けてくれる先生

には徹底的に質問した。それだけだった。結局は、時間中が勝負、後で調べようなどと思ってもできっこない。授業時間中に神経を集中させて理解に努め、理解できないことは直ぐさま尋ねる、これが勉強のこつではなからうか。

そうはいつでも中々実行できないという声が聞こえそうである。要は、その気になるかどうかが決め手だ。それ以外にない。その気にならないければ、幾ら時間があっても同じ事だ。(T)

ズキズキ痛む

先日、中日新聞の夕刊「夕歩道」に「日本語では、痛みを伝えるとき、ズキズキとか、キリキリとか擬態語を加えて表現する。……英語ではいくつかの用語がある。広く使われるペインをはじめ痛みの種類や部位によりエイク、スマート、ソアーな

どを使い分けている。一方、日本語は痛い、うずくがあるだけ。感覚的な要素の強い言語なのだ。……」と(2007.4.23)。これは、日本語の擬態語、ある肝心な一点で重要なことを見落としている。この筆者

は決して「日本語は痛い、うずくがあるだけ」だから困るとか、色々の表現がある英語の方がいいとは言っていないが、言外には若干その響きを感じるのとは間違いだらうか。

確かに、この擬声語擬態語は感覚的なニュアンスを帯びているかも知れないが、それこそが日本語の英語にはない長所なのだ。痛みを表す動詞や形容詞は一つだけで十分であって、あとは、どのようにということをも擬声語擬態語によって示すのである。「擬声語擬態語」とは長々しくて厄介だが、単に、擬声語とか、擬態語とか言ってすませないことがあるので仕方がない（厄介だからと言ってこの語群を「オノマトペ」と名付ける人もいるが、やはり原義からは外れ不適當である）。その他にも種々の用語がある。未だ十分普及していないで残念であるが、小松英雄氏の「活写語」という言い方はこういう語群の特性を示した優れた用語であると思う。日本語には無くてはならぬ語群なのである。外国人留学生が、日本語教育のためにと言ってこの研究を志す者が多いのは宜なるかなである。

別の例として、たとえ

ば「歩く」という言葉を考えてみよう。日本語では「走る」は別として、この動作を表す言葉は他にない。テクテク歩く、スタスタ歩く、トボトボ歩く、フラフラ歩く、ヨロヨロ歩くなど、「活写語」がその動作の状態を生き生きと描き出している。英語では、walkにこれを修飾する言葉を添えるのではなく、trudge, plod, totter, stagger, reelといった別の語で表す。先の、「夕歩道」の筆者の言葉で言えば、色々の語を使い分けているということ、「語彙」が豊富であると言え言えるのである。どちらがいいとかよくないということではなく、表現のシステムが違うのである。日本語は、状態を示す語と、動作を示す語を別々に用意して、それを組み合わせて表現しているのであり、英語は両方の概念を一語の中に押し込めて造語しているのである。

これと似たこととして、日本語で「みる」という一語に、漢字は思いっくだけでも、見、観、看、窺、相、視、診、察、監、睹、瞰、覧など多数ある。漢字辞典の訓による索引を見ればもつともつとあるだろう。違う漢字はそれぞれ微妙なニュアンスをい

い分けたり、違った「みる」行為を示している。日本語でも、これを多少は利用しているが、ありていに言えば全て「みる」

イチゴミルクと レモンティー

苺にミルクをかけて食べるととても美味しい。練乳をかけるのとびきり美味しい。紅茶にレモンを入れて飲む、いわゆるレモンティー、子供の頃には中々

味わえる物ではなかった。何故、こんなに旨くなるのだろうかと思議に思った。今も苺ミルクやレモンティーを味わうとき思い出す苦い思い出がある。

まだ、高校生にも成らぬ頃だったか、或いは、その頃だったか、昭和30年代初めのことだったと思う。私は、小学校6年生の時、今居る名古屋の寺に養子として来た。弟が私かどちらかが来ることになっていたようだが、結局私が来た。その弟が田舎から名古屋に出てきたときのことだ。ご馳走をしようと思って、入ったこともない駅前

一つで済むのである。それをそれぞれの表現で、分かるように、修飾語を付けて区別するのである。(T)

の小さな喫茶店に入り、レモンティーとケーキを食べた。一人分100円にも成らなかつたと思う。とても美味しかった。

それを母に言った。そうしたら、今からそんな贅沢をしてどうなるとどやされた。ビックリして、その後はそれは贅沢だと知って慎んだ。こんな思い出があるのに、未だに、レモンティーは贅沢なんだという気持ちが拭いきれず、心していただいている。苺ミルクについてもそういう何かがあったのだが、明瞭には覚えていない。しかし、何しろ贅沢な物なのだという思いだけが残っている。毎日頂いては罰が当たるような気がする。今時こんなことを言ったら笑われるに決まっていると思うけれども。(T)

か

5・6月号
の感想

利用しやすいに期待

★表紙が北部厚生会館の改装プランでびっくりした！これまでに、利用しやすいものになることを期待しています。

【Andy】

フラガール上映会楽しみ

★かけはしを読んでフラガールの上映会があることを知りました。楽しみにしています。言魔魔言ってなんて読むのですか？

【かすてら】

▼「魔言」は執筆者のペンネームなのでしょいか。編集部では、「まげん」と読んでいます。【編集部】

ビアガーデン楽しみにしています。

【玉木一郎】

FNさらなる継続を

★「新フィールドノート」100回の連載お疲れさまでした。更に続くことを期待しています。

【赤塚保雄】

「お大様の散歩」に
共感しました

【バウアー】

意見と

通信

写真屋と時計屋は？

★表紙の北部生協改装プランのことですが、CVSコーナーってなんのコーナーなのでしょう？それと写真屋さんや時計屋さんはなくなってしまうたでのしょうか？この二つはたまにお世話になつていただけになくなる残念です。他に鍵とか靴の修理屋さんがあるとさらに便利な気がします。【玉木一郎】

▼CVSはコンビニ商品を意味します。カメラ写真コーナーはデジタルカメラの普及により手軽にパソコンで見られるようになったりプリンターに出力したりでDPEの利用者は激減しており、現時点では廃止し、DPEの受付機能のみは残すようにしたいと思います。めがね・時計コーナーは継続して利用いただけるようにいたします。

【箕浦常務理事】

け

どこまでも透き通った青空は

★「かけはし」の中で映画『日本の青空』の名大祭企画上映の案内があり、是非とも会場に足を運んでみたいと思いました。この映画では、日本国憲法をとりあげていますが、青空ということ、最近思うことは、子供の頃に見ていた本物のどこまでも透き通るような青空を、今、見ることができないのが残念です。なりません。人間の心がそのまま映し出されているのかも知れませんけど……。【Andy】

一人でも多くの人の手に

★私は毎号楽しみ『かけはし』を読ませてもらっているのですが、クイズの応募総数などを見ていると『かけはし』を読んでいる人が少ないように感じます。そこで、紙面にカラーページを入れてみるとか、学生にとって身近な存在になるように学生の作るページなどもあればもっと読者も増えるのではないかと考えていました。教職員・院生の架け橋となる『かけはし』が一人でも多くの人の手に届くのを期待しています。

【えいちゃん】

は

▼かけはしは毎号3200部発行し、教職員の職場に届けております。業務や研究活動の多忙化による物なのかクイズの回答者は激減し、現在では院生の方が多くいます。紙面カラー化は予算上無理な状況です。【かけはし編集部】

これからも頑張つて

★いつも大変楽しく読んでます！これからも頑張つて下さい☆

【風間駿輔】

書籍利用班つてお得です

★生協の本屋の利用班に入っています。職員だけの割引期間もあつてお得だと思うので、もっと積極的に宣伝されるとよいと思います。

【かすてら】

ウィルスにはご注意ください

★「麻疹」が流行しています。PCにもウィルスに感染したという声をよく聞きます。PCの場合はきちつと対処すれば感染することはありません。ブラウザの正の場合はスクリーンショットを無効にさえしていれば、まず安全です。信頼できるサイトを閲覧するときだけ有効にしましょう。

【赤塚保雄】

し

の

輪

名大生協



「かけはし」編集委員会行

.....山.....折.....り.....

○氏 名.....組合員証番号.....

○所 属.....研究科
学部
センター.....専攻・課
学科・掛（教職員・院生）

○連絡先.....内線.....

○誌上匿名希望の方はペンネーム.....

.....山.....折.....り.....

①瑞浪・中国人殉難者慰霊祭と化石博物館見学【9月16日（日）】
参加申込用紙

番号	氏 名	所 属	年齢	内 線	組合員証番号

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 272 号

クイズのこたえ _____

☆今月号を讀ん
での感想

☆記事にしてほしいこと。生協へのご
意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOP クイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail: kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。

N o . 2 7 2
2007 月 7 · 8 月号



前回の
問題

[illegible]

採用の方には図書カードを進呈。

應募要項

- 締め切りは8月末日
- 発表は本誌、10月号
- 正解者（但し、①組合員
Ⅱ当選後ご加入も可、②
意見・感想記入者）の中
から、抽選で5人の方に
図書カードをさしあげま
す。
- 生協への意見・要望をど
しどしお寄せ下さい。

第271号の当選者

・応募総数	・・・7人
・正解者数	・・・7人
・当選者（敬称略）	
伊奈 直子（理学研究科）	
安藤 元良（工学部）	
小川さおり（生命農学研究科）	
玉木 一郎（生命農学研究科）	
赤塚 保雄（情報連携基盤C）	

以上の5人の方に図書カードをお送りします。

今月のシンポジウム・公開講座

テーマ	氏 名	所属 (研究科)	開催日	開始時刻	開催場所
高齢期の生活習慣病 「生活習慣病の今、これから」 「高齢期の生活習慣病対策」 事前申込制 (ライフトピア TEL:052-719-1951)	近藤高明 村本あき子	医学部保健学科 あいち健康の森 健康科学総合センター	7月8日	13～	大幸キャンパス 東館 4 階大講義室 定員：250 名 参加費：500 円
FTA は人口減少国の利益となるか？ 国際間要素移動は二重経済における賃金格差を縮小させるか？	近藤健児 藪内繁巳	中京大学 名古屋市立大学	7月9日	13:30～ 15:30～	経済学部 129 号室
A game theoretical analysis of the spot prices in wholesale electricity markets 産業汚染と集積の経済	手塚広一郎 内藤 徹	福井大学 釧路公立大学	7月13日	16:00～ 17:30～	経済学部第 1 会議室
復興まちづくりへの挑戦～阪神・淡路大震災の教訓	小林郁雄	神戸山手大学	7月17日	18:00～	環境総合館 1 階レク チャーホール
The effect of unit pricing on illegal dumping: emprical evidence from the household electric appliance recycling program in Japan	松山 茂	青山学院大学	7月20日	15～	経済学部第 1 会議室
Shakespeare 作品から見る Lady Mary Wroth-- Love's Victorie を中心に	楠 明子	東京女子大学	7月20日	16～	文学部会議室
排便と排便障害のお話 出勤!! 災害サンダーバード!!!	前田耕太郎 小山 剛	藤田保健衛生大学 高齢者総合ケアセ ンターこぶし園	7月21日	12:30～	附属病院中央診療棟 3 階講堂 参加費：1,000 円
有機合成化学からケムバイオケム ～全合成から活性発現分子機構解明に向けて～ 動物の模様は色素細胞の相互作用が作る波である	磯部 稔 近藤 滋	生命農学研究科 理学研究科	7月24日	17～ 18:05～	高等総合研究館 6 階 カンファレンスホー ル
高齢期の生活習慣病 「生活習慣病対策その 1：運動」 事前申込制 (ライフトピア TEL:052-719-1951)			7月29日	13～	大幸キャンパス 東館 4 階大講義室 定員：250 名 参加費：500 円
Delayed Dynamics in Hetrogenous Competition with Product Differentiation Oligopoly with Capacity Constraints and Thresholds	松本昭夫 Ferenc Szidarovszky	中央大学 Univ. of Arizone	8月7日	13:30～ 15:30～	経済学部 129 号室
高齢期の生活習慣病 「生活習慣病対策その 2：食事」 事前申込制 (ライフトピア TEL:052-719-1951)			8月19日	13～	大幸キャンパス 東館 4 階大講義室 定員：250 名 参加費：500 円
天文学の最前線～謎に挑む日本の宇宙望遠鏡～	芝井広 尾中敬 山崎典子など	理学研究科 東京大学 JAXA 宇宙科学研	8月25日 ～27日		IB 電子情報館、名 古屋市科学館など 申込〆切 7 月 22 日
高齢期の生活習慣病 「これからの健康な生活を考える」 事前申込制 (ライフトピア TEL:052-719-1951)			9月2日	13～	大幸キャンパス 東館 4 階大講義室 定員：250 名 参加費：500 円
地下水で東南海・南海地震を予測する	小泉尚嗣	産業技術総合研究 所	9月12日	18:00～	環境総合館 1 階レク チャーホール

名古屋大学消費生活協同組合

☎ <052>781-1111 (内線 7540)

- 書籍 (和書・洋書・雑誌) に関するご相談は
 - 北部書籍 (内線 7544) 南部書籍 (内線 7551)
 - 医学部書籍 (内線 5208) 大幸書籍 (内線 5552)
- 文具・事務用品に関するご相談は
 - 北部購買 (内線 7542) 南部購買 (内線 7549)
 - 医学部購買 (内線 5209) 大幸購買 (内線 5552)
 - 農学部購買 (内線 7557)
- レストラン「花の木」(内線 7605)
- 旅行 (国内・海外)・宿泊に関するご相談は
 - 北部旅行・サービスセンター (内線 7543)
 - 南部旅行・サービスセンター (内線 7550)
 - 医学部旅行・サービスセンター (内線 5213)
- 印刷とネットワークに関するご相談は
 - 印刷・情報サービス部 (内線 7552)
- パーティー料理・弁当に関するご相談は
 - 弁当部 (内線 7553) 理系食堂 (内線 7555)

正誤表

かけはし2007年7・8月号11ページ4段目中頃

<誤>

今のところ学内センターとして2つ、1つは、工学研究科も関係していますが全学の組織として、昨年、小型シンクロトロン光研究センターが立ち上がりました。そして、この4月にプラズマナノ工学研究センターが立ち上がりました。

<正>

今のところ学内センターとして2つ、1つは、工学研究科も関係していますが全学の組織として、昨年、プラズマナノ工学研究センターが立ち上がりました。そして、この4月に小型シンクロトロン光研究センターが立ち上がりました。